シェアシステムによる財団資金の活用

・年次基金寄付は、3年後に国際財団活動資金（WF）と地区財団活動資金（DDF）に、運営費として5%が引き出されたあとで、WFとDDFに均等に二分されることとなります。（2021年7月以降）

・恒久基金寄付は、収益のみがシェアに基づき配分されます。

ロータリアンの寄付

種類	年次基金寄付	恒久基金寄付		その他の基金寄付
方針	3年後に全額使用	全額積立	収益使用	寄付目的に使用

運営費5% ｜ シェア（95%）

（例）ポリオプラスプログラム
ロータリー平和センタープログラム
グローバル補助金事業の提唱者側現金寄付

50%　50%

国際財団活動資金＝WF

ロータリー財団管理委員会が使途を決定します。

使途

①	クラブや地区が計画するグローバル補助金事業に使用する。 ●クラブや地区が財団に直接申請する。 ●グローバル補助金：対象総予算額：＄3万～＄40万 ●DDF資金に対しWFからの上乗せを、100%から80%に引き下げ（2021年7月以降申請分）
②	ロータリー平和センタープログラムに使用する。

●3年の資金サイクル

財団では、地区が十分な時間をかけてプロジェクトを計画・選択できるよう、また、投資収益を運営費（寄付推進費と一般管理運営費）に充てることができるように計画された3年間の資金サイクルを採用している。地区からの年次基金（シェア）への寄付は、3年間投資され、3年後、運営費として5%が引き出された後（2021年7月以降）、寄付の50%が国際財団活動資金（WF）に、残り50%が地区財団活動資金（DDF）となる。財団は、WFとなった資金を、すべてのロータリアンのための補助金やプログラムに利用する。地区は、DDFを使用して補助金やプログラムに参加することができる。WFの5%までが、必要に応じて財団の運営費に充てられる。

地区財団活動資金＝DDF

地区が使途を決定します。

使途

㋑	地区補助金に使用する。 ●DDFの50%以内の額をもって、地区が財団に一括申請する。（申請時に、使用計画書を提出し、審査を受ける。） ●クラブは地区に地区補助金個別プロジェクトを申請し、地区より補助金を受け取る。補助金額は地区が審査する。
㋺	クラブや地区が計画するグローバル補助金事業の資金として使用する。 ●クラブがDDFを使用する場合、DDF活用申請書を地区へ提出する。 ●地区のDDF使用計画の下で、個別プロジェクトへのDDF使用額が検討される。 ●使用の承認は、ガバナーと地区ロータリー財団委員長が行う。
㋩	ポリオ・プラス基金 ロータリー平和フェローシップ基金 ロータリー平和センター恒久基金 へ寄贈する。

5.グローバル補助金の調達

国際財団活動資金（ＷＦ）からグローバル補助金に支給される下限額は、活動の種類にかかわらず活動資金の総額は最低 30,000ドルとなり、国際財団活動資金（WF）の最高授与金額400,000ドルとなっております。ＤＤＦ（地区財団活動資金）に対しては2021年7月1日以降、WF資金の上乗せが100%から80%へ変更されております。現在コロナ感染状況の中、人道的プロジェクトのためのグローバル補助金について拠出金総額に占める援助国側からの寄付に関する要件が30%から15%に変更になっております。グローバル補助金申請のDDF以外の現金拠出に対する追加分は、廃止されました。詳しい情報は、RI日本事務局財団室にお問い合わせください。

補助金が 50,001 ～ 200,000 ドルの場合、使用計画に沿って分割で支払われます。

２回目以降の支払いには不備のない進捗報告書の提出と、財団専門家チームによる現地視察が必要です。補助金は 200,000 ドルまで申請することができますが、100,000 ドル以上は管理委員会が四半期毎に審査します。

6.グローバル補助金の申請

グローバル補助金はクラブが直接ロータリー財団に申請します。申請書はすべて、年度を通じて随時受け付けられます。オンラインの申請手続は、国際ロータリーのウェブサイトの「**会員アクセス**」 を通じて行うことができます。また、奨学金と職業研修については、ロータリアンによるオンライン申請続開始後に、ロータリアン以外の参加者のアクセスが可能になりますので、必要事項を記入します。

ロータリー財団は複数クラブが協力してプロジェクトを実施する事を奨励しています。期間に関わらず、代表提唱クラブ、代表提唱地区として DDF を申請できるのは原則として最大10件までに限られます。また、代表提唱ではなく共同提唱のようないわゆる協力クラブや協力地区の場合、事業件数として制約の対象にはなりません。

１）第2650地区のDDF申請時期

クラブは資格認定（財団補助金管理セミナーおよび地区財団セミナーを受講し、クラブの覚書（MOU)を提出していれば、年度を通して随時DDFを申請することができます。ただし、地区DDFが枯渇した場合またはWFが枯渇した場合は、申請書の受付を一旦休止し、次年度から審査を再開することがあります。

２）グローバル補助金の申請手順.

申請入力にあたっては、必ず「補助金センターのご利用ガイド」をダウンロードしてお手元にご用意ください。

（参照）RI ウェブサイト：https://my.rotary.org/ja/document/how-use-grant-center）

My ROTARY ログイン後に、ご利用いただけます。

第９章「補助金センターのご利用ガイド」(P96～100)にサンプルの入力方法を紹介しております。